

# 75年目の現実

## 被爆国日本の「核」問題と向き合う

草 づ け つ 和 令

外交評論家

金子熊夫

kaneko@eeecom.org

た。

◇署名せず三原則をないがしろ(豊川 五島口男)

◇被爆国なのに核から目をそらす(豊橋 新城さくら)

また、選者(鈴木太氏)の評の中にも「唯一の被爆国日本は『核禁止条約』をどう考えるのか、大切な問題である」というコメントがあり、読者諸氏の関心の高さが読み取れました。

「核」問題をめぐる論議が例年以上に盛り上がりました。本紙でも、たまたま拙稿「いつまでも『あの戦争』でいいのか」が掲載された8月16日号の3面の時事川柳に、次のような句が載っていました。

妙なテーマなので、できるだけ中立的な視点から分かり易く論じてみるつもりです。

実は私自身、外交官として長年この問題に深く関わってきたし、退官後も、広島、長崎両市長の外交顧問のような形で、核廃絶運動のお手伝いをしてきました。そうした経験から、被爆者や一般市民の切実な気持は人一倍分かっているつもりです。

### 感情論だけの議論は非建設的

そのうえで、敢えて結論から先に言えば、被爆



金子熊夫氏

国日本の立場は非常に複雑です。そこを正しく認識せずに自らの思い込みや感情論だけで議論すると議論が空回りし、いつまでたっても問題の本質の理解には至らず、かえってフラストレーションを増幅するのではないかと感じています。

さて、今夏の広島、長崎両市の平和宣言は例年のように、日本の非核三原則の厳守、「核の傘」(核抑止力)からの脱却、「核兵器禁止条約」への参加を強く求めました。これに対し安倍晋三首相(当時)のあいさつは、これまで例年通り、そっけない言及にとどまり、被爆者たちとの面談でも明言を避けたと、マスコミで一斉に批判さ

れましました。「被爆国の首相の姿勢として情けない」と嘆いた人もいました。私は現在、政府の見解を代弁する立場にありませんが、一人の専門家として言えば、確かに日本を取り巻く核の現状は非常に複雑かつ深刻であり、そこを冷徹に正視し、出来るだけ客観的に理解することが大事だと思います。

(2面に続く)

# 令和つれづれ草

金子熊夫

## 北朝鮮と中国の「核の脅威」の正体

まず北朝鮮の核についてですが、金正恩政権は2年ほど前までの米トランプ政権との見せかけの「友好ムード」をかなぐり捨て、国際社会の非難を無視して、今まで以上のペースで核弾頭とミサイルの開発・配備を進めています。すでに日本列島全域やグアム、ハワイをすっぽり射程圏内にした核ミサイルを保持しているほか、米本土（東海岸を含む）をも攻撃できる長距離弾道ミサイルの開発にも取り組んでいると見られます。

北朝鮮の本当の狙いがどこにあるのかは必ずしもはつきりしませんが、一番懸念されるのは、今後何らかの状況変化や判断ミスで暴発し、核を使う可能性が皆無ではないということ。【窮鼠猫をかむ】式に米国に核攻撃を仕掛ける、あるいは米国の代わりに、まず同盟国日本を攻撃する可能性も完全には排除できません。

しかし、北朝鮮以上に

## 日本は中国の核にどう対処するか

中国の核が特に問題視されるのは、その大部分が日本やインド、台湾、米国（グアム、ハワイなど）をターゲットにしているからです。このような状況において、日本はどう対応したら良いのでしょうか。これには、大きく3つに言って、3つの選択肢があると思います。

# 75年目の現実

## 被爆国日本の「核」問題と向き合う

①日本自身が核武装して対抗する（非核三原則は破棄、核不拡散条約から脱退）

②日本が米国との同盟関係を清算し、米中どちらにもくみせず、中立的立場をとる（場合によっては中国の風下に立つことも甘受する）

③現行の日米同盟関係を継続し、米国の核抑止力に依存的な安全保障体制を維持する。中国の核には屈しない

このうち①については、悲慘な被爆体験を持ち、未だに核に対して強いアレルギーを持つ大多数の日本国民が到底賛成しないとされます。②についても、魅力的に響くかもしれませんが、国際政治の現実からみて成り立ちません。終戦直後「日本中立論」なるものが一時期盛んに提唱されましたが、結局夢で終わりました。

となると、答えは③以外にないということになります。自主核武装を断念した日本が国家安全保障を確保しつつ毅然として中国と対等に付き合うためには、日米安保条約に基づく米国の核抑止力に依存する以外に現実的な選択肢はないことが明らかです。

念した日本が国家安全保障を確保しつつ毅然として中国と対等に付き合うためには、日米安保条約に基づく米国の核抑止力に依存する以外に現実的な選択肢はないことが明らかです。

民間放軍の将官が「日本には、北海道から九州まで10発投下すれば十分だ。仮に日米共同の迎撃ミサイル・システムで、10発中9発を途中で叩き落されたとしても、100発撃てば10発は命中する」と豪語するのを聞いたことがありません。

全く非公式に、かつ不用意に口走ったもので、中国政府の公式見解であるはずはなく、まともに受け取るべきではないでしょう。にもかかわらず、極めて露骨な脅し（ブラッフ）であり、決して聞き捨てにはできません。

その中国は最近、コロナ禍の混乱に乗ずるかのようにならぬ脅し文句

私は特に退官後、たびたび国際専門家会議などで、中国の関係者や専門家と意見交換をしました。ある時、会議の合間の非公式の場で、中国人

メディアでも時々報道されていますが、それにしても危機感が希薄すぎるように感じます。核兵器はいかなる場合においても決して使用されるべきではないし、核保有国も軽々に使うとは思えませんが、万一に備えて、日頃からこちらの防衛体制を固めておくべきです。

核抑止力は、相手に核使用を思いとどまらせるのが目的であって、あくまでも防衛的なものです。日米同盟における「核の傘」は、まさにそのような性格を持っています。そうであるからこそ、

日本は、被爆国として核廃絶を願いながら、核兵器を違法化する「核兵器禁止条約案」への参加を見合わせるべきです。

「核兵器禁止条約案」への参加を見合わせるべきです。被爆者たちが同条約への参加を熱望する気持ちには痛いほど分かりますが、日本政府としては現実的なスタンスを堅持せざるを得ません。政府は、国民の命と国の安全を当面の危険

メデイアでも時々報道されていますが、それにしても危機感が希薄すぎるように感じます。核兵器はいかなる場合においても決して使用されるべきではないし、核保有国も軽々に使うとは思えませんが、万一に備えて、日頃からこちらの防衛体制を固めておくべきです。

核抑止力は、相手に核使用を思いとどまらせるのが目的であって、あくまでも防衛的なものです。日米同盟における「核の傘」は、まさにそのような性格を持っています。そうであるからこそ、

日本は、被爆国として核廃絶を願いながら、核兵器を違法化する「核兵器禁止条約案」への参加を見合わせるべきです。

「核兵器禁止条約案」への参加を見合わせるべきです。被爆者たちが同条約への参加を熱望する気持ちには痛いほど分かりますが、日本政府としては現実的なスタンスを堅持せざるを得ません。政府は、国民の命と国の安全を当面の危険

メデイアでも時々報道されていますが、それにしても危機感が希薄すぎるように感じます。核兵器はいかなる場合においても決して使用されるべきではないし、核保有国も軽々に使うとは思えませんが、万一に備えて、日頃からこちらの防衛体制を固めておくべきです。

（敵）から守る義務があるからです。ちなみに、同条約は10月下旬に批准国が50カ国に達したので来年1月に発効することが決まっていますが、核保有国が全く不参加なので実際の効力は持ちません。

首相も外相も、国内世論と外交的影響を気にしてか、こうした事情をはつきり説明しないので、一般国民は不審に思い、不信感を募らせているようです。ここは国民の側でも理性と想像力を働かせる必要があると思います。

新型コロナウイルスにしても核兵器にしても、極めて厄介な相手なので、腰を据えてじっくり対処する以外にありません。とりわけ核については、日本の立場は、何度も繰り返すように非常に複雑微妙です。一見、一般国民と政府の姿勢に大きなズレがあるようにみえますが、決して根本的に矛盾しているわけではなく、お互いに一致団結してこの宿命的な難題に取り組んでいく以外にないと思います。

紙幅の関係で、十分意が尽かせていませんが、ご理解の一助となれば幸いです。

紙幅の関係で、十分意が尽かせていませんが、ご理解の一助となれば幸いです。

紙幅の関係で、十分意が尽かせていませんが、ご理解の一助となれば幸いです。

紙幅の関係で、十分意が尽かせていませんが、ご理解の一助となれば幸いです。

紙幅の関係で、十分意が尽かせていませんが、ご理解の一助となれば幸いです。

紙幅の関係で、十分意が尽かせていませんが、ご理解の一助となれば幸いです。

紙幅の関係で、十分意が尽かせていませんが、ご理解の一助となれば幸いです。

紙幅の関係で、十分意が尽かせていませんが、ご理解の一助となれば幸いです。

紙幅の関係で、十分意が尽かせていませんが、ご理解の一助となれば幸いです。

紙幅の関係で、十分意が尽かせていませんが、ご理解の一助となれば幸いです。



中国の最新鋭大陸間弾道ミサイル（新華社通信のHPから）

## 国民協調して核の脅威に対処

実は日本政府も、現状にいつまでも安住してよいとは思っていません。核廃絶という究極目標の達成に向かつて、国連などの場で地道な努力を重ねていますし、核兵器禁止条約に当面加入しないにしても、究極的な核廃絶（核抑止力依存からの脱却を含む）を目指し、核兵器国と非核兵器国との「橋渡し役」として、忍耐強く努力すると約束しています。この点はぜひ信じていただきたいと思えます。

新型コロナウイルスにしても核兵器にしても、極めて厄介な相手なので、腰を据えてじっくり対処する以外にありません。とりわけ核については、日本の立場は、何度も繰り返すように非常に複雑微妙です。一見、一般国民と政府の姿勢に大きなズレがあるようにみえますが、決して根本的に矛盾しているわけではなく、お互いに一致団結してこの宿命的な難題に取り組んでいく以外にないと思います。

紙幅の関係で、十分意が尽かせていませんが、ご理解の一助となれば幸いです。